

済生会広島病院 消化器内科後期研修プログラム

(1) 一般目標

1. 消化器内科医として必要な知識・技能・態度を身につける
2. 患者の立場に立ち、全人的な医療の実践
3. 患者及び家族との良好なコミュニケーションがとれる
4. チーム医療において他科の医師、その他の医療スタッフと良好な連携をとる
5. 診療録その他必要な記録や文書を適切に記載できる
6. 研修期間中の内科認定医取得を目指す

(2) 行動目標

1年次では基本的な消化器疾患の診療に担当医としてあたり、検査・治療の計画を立てることができるようになることを目標とする。また腹部超音波、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査、消化管造影検査などの基本的手技を習得する。この間、各種内視鏡手術、ERCP、PTCD、PTGBD、肝生検、腹部血管造影などの介助にあたる。

2年次・3年次には専門的な内視鏡手術に術者としてあたり、専門医の指導のもと、安全・確実に施行できることを目標とする。また ERCP や各種観血的な処置、イレウス管の挿入などもこの時期に担当医として独自に判断し、必要であれば専門医の指導のもとに実施できることを目標とする。

※ 基本的には日本消化器病学会専門医カリキュラムを考慮した内容になるように考えている。

カンファレンスなどでの症例提示、また院外での学会・研究会での発表を行う。できれば論文化することを目標とする。

病院の特性を理解し、一般内科医として消化器疾患以外の診療にあたる。

(3) 在籍後期研修医数 1名 (平成22年3月31日現在)

(4) 指導体制

指導責任者 隅井浩治 (日本消化器病学会指導医・日本消化器内視鏡学会指導医)

指導担当者 讃岐英子 小林博文 谷本達郎 神野大輔 小林賢惣

(5) 研修内容

主な週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM	内視鏡 (上部・下部)	外来	内視鏡 (上部・下部)	腹部超音波	消化管造影
PM	特殊検査		特殊検査	午後外来	特殊検査
備考			内科 カンファレンス	消化器内科 カンファレンス	外科と合同 カンファレンス

(6) 処遇

勤務時間 8：30～17：15

当直回数 2～3回 /月

休日 週休二日制、国民の祝日

身分 正職員

給与 ※基本給を記載。通勤手当等別途あり。

1年次 633,400円

(本俸 323,600、地域手当 3,800、初任給調整手当 306,000)

2年次 644,800円

(本俸 335,000、地域手当 3,800、初任給調整手当 306,000)

3年次 654,400円

(本俸 344,600、地域手当 3,800、初任給調整手当 306,000)

宿舍の有無 無し

学会出張支援の有無 有り

(7) 関連学会の施設認定状況

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

※ 内科学会認定内科医受験に際して申請する症例に関して

当院での症例は広島大学病院の関連施設としての症例として取り扱われるので、申請する症例に加えることが可能。

(8) 診療実績	診療科病床数	330 床 (稼動病床 270 床)	
	内視鏡件数	上部内視鏡	2,576 件
		下部内視鏡	1,320 件
		ERCP	108 件

(9) 学会関連実績

日本消化器病学会中国支部例会	
日本消化器内視鏡学会中国地方会	
安芸地区医学会	
研究会	その他での発表

(10) 施設の特徴とアピールポイント

各種消化器疾患の診断、そのための検査手技の知識と技能の修得および治療を中心に研修する。対象疾患は消化管・肝・胆・膵疾患など消化器全般にわたり、安芸地区の中核病院として消化器に関連した救急疾患を多く経験できるのも当院の特徴のひとつである。

一方で高齢化社会を迎え、多くの患者で種々の合併症を有していることも多く、内科担当医としてそれらの病態にも対応できる能力も要求されているため、当院では他の医師（内科だけでなく脳神経内科医・放射線科医・外科医など）の助言や指導を受けやすい体制を整えている。初期対応にとどまるものものから専門的な治療に及ぶものまで、担当医として適切な判断と知識・技能を幅広く修得できる環境にあると考えている。

また病院が広島市内に近く、院外での研究会や研修にも参加しやすいことも好材料である。